



CSR

当社は、生命保険会社の社会的責任を果たすべく、CSR (企業の社会的責任) の視点で事業活動を点検・改善しながら、お客さまから信頼され、選ばれる会社を目指しています。

CSR

当社は生命保険という長期にわたる保障を提供しています。未来永劫、途切れることなく、十分なサービスをお客さまに提供し続けることが当社における最も重要なCSRと考え、これからも全てのステークホルダーに対する責任を果たしていきます。

また、少子高齢化や地球環境問題など、社会のさまざまな課題の解決に向けて、日々行動を重ねていくことも、生命保険会社としての社会的責任であると考えます。

「社会・環境」「いのちと健康」「人の生活の安心」の3つの領域をCSR三本柱として定めて、活動を展開してきました。

CSRの定義

当社では以下のようにCSRを定義しています。このようなCSRの視点から事業活動を行うことで、営業・サービスの品質や従業員のモチベーション向上、ひいては企業価値の向上と社会の健全な発展の両立を目指します。

当社の存立基盤である社会の健全な発展に好影響をもたらす企業活動を推進すること。

CSR経営宣言

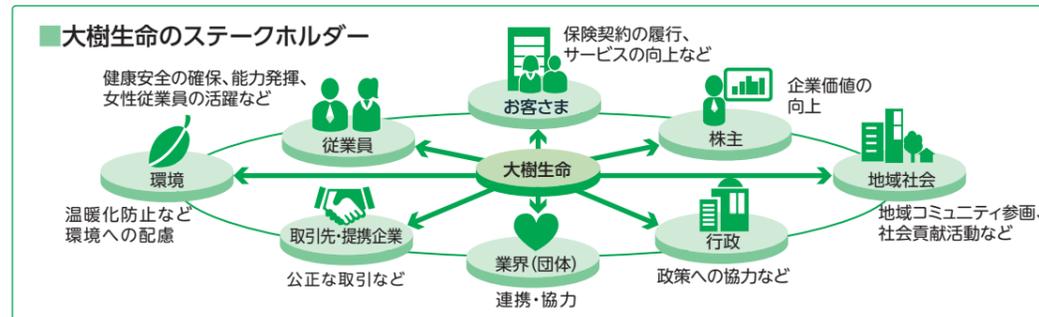
当社では、「CSR経営宣言」に従って当社が取り組むべき課題を選定・遂行して、ステークホルダーの皆さまに対する責任を果たしていきます。

大樹生命は、経営理念の下、社会の一員として持続的な発展を目指し、以下のとおり企業経営を進めます。

- 役職員一人ひとりが企業人としての自覚と責任を持ち、法令・社会規範の遵守、適切なリスク管理、適時適切な情報開示を通じて、社会の信頼に応える公正・透明な企業経営を行います。
- お客さまの「安心」を長期にわたって支えるため、お客さまの視点に立った商品やサービスを提供する不断の努力を続け、お客さま満足の向上を追求します。
- 株主の期待と信頼に応えるため、安定的、持続的な企業価値の向上と適切な利益還元を実現します。
- 従業員の人權、人格、多様性に配慮し、自己成長を含む能力開発や仕事と生活の調和を通じて、誇りとチャレンジ意欲を持って能力を発揮できる職場環境の構築と社会生活の安定向上に努めます。
- 事業の礎となる社会の発展に寄与し、次の世代にも豊かな地球環境や安全・安心に暮らせる健全な社会を引き継げるよう、継続的な取組を行います。

大樹生命を取り巻くステークホルダー

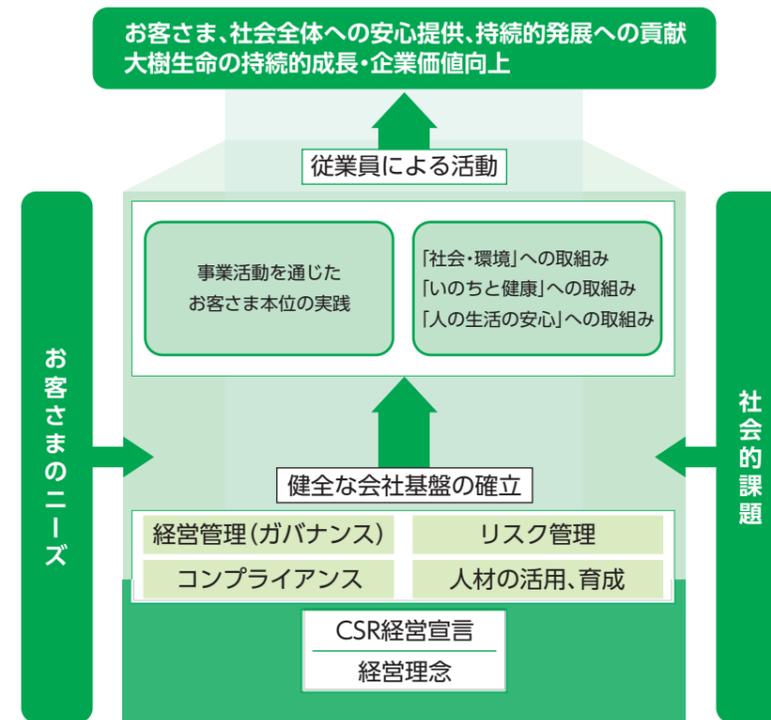
当社では、お客さま、株主、従業員、そして、それらを取り巻く社会全体をステークホルダーとしてとらえています。株式会社である当社は、株主からの出資によって事業基盤が形作られていることは言うまでもありませんが、それだけでなく、生命保険会社として、持続的かつ安定的な事業を実現するために、お客さまとの保険契約が長期間にわたり維持されることが必要不可欠です。保険契約の維持、つまり、お客さまの満足度やお客さまとの信頼関係を維持するために、当社は、社会全体の健全な発展への貢献を目指します。



CSR活動の展開

お客さまや社会から信頼される生命保険会社であるためには、ガバナンスやリスク管理、コンプライアンスの強化などを通じた健全な経営基盤の確立が前提となります。

これらの経営基盤に基づき、よりよい商品・サービスの提供によってお客さまのニーズに応えていきます。さらには生命保険という事業特性をいかながら、CSR活動を通じてさまざまな社会的課題の解決に取り組みます。このような活動を通じて、安心・安全で持続可能な社会の発展に貢献し、その結果として当社自身も持続的成長を遂げることを目指します。



活動内容

2019年度の活動内容と、2020年の活動の一覧です。

カテゴリー	2019年度活動内容	2020年度活動内容	
当社のCSR三本柱	「社会・環境」への取組み	・シークレットポストによる資源の再利用	・環境対応 (CO ₂ 削減等への取組み)
		・クールビズ、空調温度設定等による節電実施	
		・ESG 投融資	・ESG 投融資の取組み継続
		・苗木プレゼントを実施	
		・“ニッセイの森”森づくりボランティア参加 ・“ニッセイの森”の森づくり推進のため、社内募金を実施して寄付	・緑化運動の推進
		・地域活動への参加	・活動拠点を中心とした地域活動への参加
	「いのちと健康」への取組み	・難病・特定疾患患者会の支援	・難病・特定疾患*に関する研究など、医療関連基礎研究・支援団体への助成
		・公益財団法人 大樹生命厚生財団への寄付を通じた医学研究助成	
		・企業献血の実施	
	「人の生活の安心」への取組み	・乳がんの早期発見に資する活動推進 ・ピンクリボンフェスティバルへの協賛・参加	・乳がん検診受診啓発運動 (ピンクリボン運動)
		・子どもや障がいのある方を支援する「ふれあいコンサート」への協賛	・子どもや障がいのある方への支援
		・経済的事情により手術を受けられない子どもを支援する「明美ちゃん基金」への寄付	
・全社防犯運動、オレンジリボン運動への参加			
・健康経営・ダイバーシティの推進 ・「一人ひとりがいきいきと働く活気ある会社」の実現に向けた、働き方改革への取組み		・健康経営・ダイバーシティの推進 ・「一人ひとりがいきいきと働く活気ある会社」の実現に向けた、働き方改革への取組み	
・多様な人材が、長くいきいきと活躍できる会社づくり ・社内外における研修企画や教育機会の更なる充実		・多様な人材が、長くいきいきと活躍できる会社づくり ・社内外における研修企画や教育機会の更なる充実	
経営のコミットメントを軸としたPDCAの強化	・2019年度の活動状況報告実施	・活動一覧の策定、PDCA 実施	
	・電子版社内報等にて CSR 意識浸透のため関連活動を紹介	・CSR 意識浸透策の実施	
	・活動内容の検証	—	

※当社は、厚生労働省より特定疾患に指定されている IBD (炎症性腸疾患) 患者に、一定条件のもと生命保険を提供しています。

CSR 三本柱「社会・環境」への取組み

環境配慮に関する基本方針

社会の一員として地域の環境保全に貢献するとともに、良好な地球環境を次世代に引き継ぐため、「環境配慮に関する基本方針」を定め、環境保護活動を行っています。

大樹生命は、社会の持続的成長を企図し、経営理念に掲げる「国民生活の福祉向上」に寄与するため、環境問題が地球規模かつ次世代以降にわたる重要な課題であることを強く認識し、環境保護に配慮した経営を推進します。

1. 地球環境保護に配慮した事業活動

環境関連のルールを遵守し、常に地球環境保護に配慮した事業活動を行います。

2. 資源・エネルギーの有効活用

限られた資源を有効に活用するため、省資源、省エネルギーおよび資源のリサイクルに取組み、環境負荷の低減に努めます。

3. 環境啓発活動の推進

全従業員の環境問題への意識向上に努め、一人ひとりの社内外での行動が環境保護に繋がるように努めます。

4. 環境問題への継続的な取組み

効果的な地球環境保護につなげるため、必要に応じて取組みの見直しを行い、長期にわたり継続的に取組みます。

社会貢献活動に関する基本方針

社会の一員として豊かな社会の実現に貢献するとともに、将来を担う子どもたちの健全な育成に貢献するため、「社会貢献活動に関する基本方針」を定め、社会貢献活動を行っています。

大樹生命は、経営理念に基づき、生命保険事業を通じて国民生活の福祉向上に努めるとともに、良き企業市民として豊かな社会の実現に貢献します。

1. 自らが社会の一員であることを意識し、社会の健全かつ持続的成長に貢献するため、「こわさないでください。自然。愛。いのち。」をテーマに活動を推進・支援します。

2. 社会や地域との調和を図りながら、従業員一人ひとりの行動が社会の発展に寄与するよう努めます。

3. より良い社会づくりに貢献できるよう、社会の要請を踏まえつつ、公共性の高い活動に継続して取組みます。

苗木プレゼント ～46年間で517万本の苗木を届けました～

当社は、「緑・自然を守り、親から子へと美しい緑の街を伝えたい」という願いを込めて、1974年に「苗木プレゼント」を開始しました。これは、当社が常に訴え続けてきたキャンペーンテーマ「こわさないでください。自然。愛。いのち。」を言葉で終わらせることなく、CSR 活動の一環として形で表現したものです。全国の企業、公共団体、学校、病院などの団体及び一般家庭に対して、気候や生育条件にあった苗木を配布し続け、2019年度で46回目を迎えました。これまでに贈呈した苗木の本数は、累計で517万本になりました。苗木は全国各地ですくすくと育ち、心地よい木陰をつくりながら周辺環境の保護や CO₂ 削減等に役立っています。



第1回プレゼントの際に植樹した苗木



1991年に植樹した苗木

こわさないでください。
自然。愛。いのち。

シークレットポストシステム

個人情報・機密情報などの書類を専用箱(シークレットポスト)で回収し、梱包したまま製紙工場などで溶解処理し、トイレトペーパーなどに再生産しています。この取組みにより情報漏えいを防ぐとともに、資源の有効活用(本社ビルで再利用)を行っています。2004年度以降累計で、直径14cm・高さ8mの木40万3千本相当を伐採から守ったこととなります。

CSR 三本柱「いのちと健康」への取り組み

公益財団法人大樹生命厚生財団

大樹生命厚生財団は、国民の健康保持とその増進をはかり、社会公共の福祉に貢献することを目的として1967年に設立されました。この目的に沿い、今日のわが国の健康上の重要課題である生活習慣病に関連する医学研究助成事業等を設立以来一貫して行っています。

●医学研究助成

第52回「医学研究助成（2019年度）」は、全国の大学・研究機関の研究者を対象に公募を行い、19研究に対して助成を行いました。また、第50回「医学研究助成」（2017年度）入選者の研究報告の中から、4研究を第28回「医学研究特別助成」としました。



医学研究助成・医学研究特別助成 贈呈式

《助成金の実績》

	2019年度		累計	
	件数	助成金額	件数	助成金額
医学研究助成	19件	1,900万円	997件	11億5,600万円
特別助成	4件	600万円	100件	1億2,300万円
合計	23件	2,500万円	1,097件	12億7,900万円

《研究課題》

2019年度	2020年度
①ビッグデータ解析による地域医療の実態解明 ②アブセンティズムとプレゼンティズムの治療 ③脳卒中後てんかん ④肝切除に於ける RCT（鏡視下 VS 開腹下）	①神経免疫疾患の病態と治療 ②ゲーム障害の実態・病態・治療 ③正常圧水頭症による認知症の診断・治療 ④HBVの根絶は可能か

●健康増進啓蒙活動

2019年度に生活習慣病の予防・啓蒙を目的とした一般参加型の講演会を当社と共同で開催しました。

ピンクリボン運動

日本では現在、女性の9人に1人が乳がんにかかるといわれていますが、乳がん検診受診率はまだ低い状況です。そうした背景の中、乳がんの早期発見啓蒙を行う運動がピンクリボン運動です。

当社は、生命・健康と密接な関係を持つ生命保険業を本業とする会社として、また、女性従業員の割合が高い企業として、ピンクリボン運動の趣旨に賛同し、この運動に参画しています。具体的には、多くの方に乳がんの早期発見の大切さを伝える「ピンクリボンフェスティバル」（公益財団法人日本対がん協会など主催）への協賛、乳がんセミナーの実施、チラシなどを用いたお客さま・地域の方々への乳がんについての情報提供や啓蒙活動などを行っています。



ピンクリボンフェスティバル2019
(スマイルウオーク東京)の様子
(写真提供：日本対がん協会)

CSR 三本柱「人の生活の安心」への取り組み

ふれあいコンサートへの協賛 ～全国で子どもたちにクラシックの演奏を届けています～

当社は、一流アーティストによるクラシック演奏を子どもたちに届け、豊かな心と感性を育んでもらいたいという思いから、公益財団法人日本青少年文化センター主催の「ふれあいコンサート」に協賛しています。

この活動は2003年の開始以来、その数は全国各地で490公演を超えています。



オペラ歌手(プリヴェット・トリオ)による学校公演

チャリティコンサート支援

当社は炎のマエストロで知られる世界的指揮者・小林研一郎氏がスペシャルオリンピックスの主旨に賛同して設立された「コバケンとその仲間たちオーケストラ」の皆さまに、本店17階「大樹生命ホール」をリハーサル会場の提供という形で応援を続けています。

このオーケストラは、知的発達障がいのあるの方々をお招きして生の演奏を楽しんでいただくためにボランティアコンサートを行っています。様々な障がいのある方も健常者も同じ空間と時を共有し同じ喜びを享受して、ともに生きていける社会の実現を願って活動されています。

明美ちゃん基金 ～26年間続けています～

先天性心臓病などに苦しみながら経済的な事情で手術を受けることができない子どもたちを救うため、1966年に設立されました。50年以上にわたり200人を超える国内外の幼い命を救い、“愛といのちのバトンタッチ”という大きな善意の橋渡し役として成長し、現在では発展途上国の医療活動や研究活動にも適用を拡大しています。当社は1994年から26年連続で寄付を続けています。

寄附講座の開講 ～過去16年間で6,000名以上が受講しました～

学校教育における個人の「金融」に関する知識教育を支援するため、2004年度より大学における寄附講座を実施しています。青山学院大学では2005年度より継続して寄附講座「パーソナル・マネー・マネジメント入門講座—大学生のためのマネー・金融・経済の基礎知識—」を設けています。講義にあたっては当社のファイナンシャル・アドバイザー経験者等の専門家が非常勤講師として教鞭を執り、パーソナルファイナンス（世帯の家計）の視点から解説し、マネー・金融・経済に関する基本的な知識の習得を目指す内容となっています。



授業風景

ミシガン大学ロス・ビジネススクール「Mitsui Life Financial Research Center」

1990年9月、当社の寄付により、ミシガン大学（米国ミシガン州アナーバー）内の研究機関として創立されました。環太平洋地域（アジア・アメリカ）の金融資本市場の発展のため、金融に関する研究論文シリーズの刊行を行うとともに、金融を巡るタイムリーなテーマについて、日米で定期的なシンポジウムを開催しています。

また、研究費用の助成や博士課程の学生への奨学金（2019年度は、58,426ドル）も給付しています。

全社防犯運動・オレンジリボン運動

犯罪の多発を背景に、地域社会では住民を中心とした防犯の協力体制が期待されています。当社では営業活動中に「地域の安全を見守ります。」と記した「地域の目カード」を携帯し、犯罪の抑止の一翼を担った活動を行っています。また、虐待を受け苦しんでいる子ども達の増加を背景に、「子どもの虐待のない社会の実現」を目指し2005年から始まった市民運動である、「オレンジリボン運動」にも取り組んでいます。



地域の目カード

従業員の健康増進に向けた重点取組み

当社では、以下の4項目を重点取組み項目として定量目標を設定し、健康増進に向けた取組みをしています。

重点取組み項目	定量目標(期限)	直近実績	主な取組み内容
生活習慣病予防への取組み	特定保健指導実施率 20%以上 【2021年度】	22.6% (2018年度) 5.3% (2017年度)	●個別勧奨の実施、受診効果の紹介 ●運動習慣の定着に向けた施策展開 (全社運動実施:ウォーキングアプリaruku&導入、所属別健康増進策の実施)
メンタルヘルス予防への取組み	ストレスチェック 受検率 85%以上 【2019年度】	88.0% (2019年度) 84.7% (2018年度)	●こころの悩みを解消する相談窓口 (健康・こころのオンライン)の設置 ●ストレスチェックの結果、高ストレス所属への ミーティング実施(改善策の検討)
禁煙促進への取組み	喫煙率 20%以下 【2021年度】	26.4% (2019年度) 26.8% (2018年度)	●禁煙デーの設定(2019年度下期より月2回) ●社内診療所での禁煙外来受診支援 ●肺年齢測定の実施 (本社・事務センター:2019年度は約300名参加)
女性特有の健康課題への取組み	婦人科がん検診 受診率改善 【対前年】	32.6% (2018年度) 32.6% (2017年度) ※35歳以上対象	●女性向け健康セミナーの開催(2019年8月) (台場会場を中心に全国で112名が参加) ●乳がん、子宮がん検診の受診勧奨 (ピンクリボン月間の活用)

Topics トピックス

健康増進のきっかけ作りとして、2019年8月に「働く女性応援セミナー」を開催しました。保健師・管理栄養士等を講師とし、女性の体調変化、自律神経を整えるストレッチ、貧血対策の食事を学びました。当日は全国から参加できるようライブ中継をしました。本セミナーは男性管理職も多数参加し、女性の健康への理解が深まり、社内のコミュニケーションの活性化にもつながっています。



本社会場 ストレッチの様子

参加者の声

自律神経の整え方、運動、食事対策で不調をセルフメンテナンスする必要性をあらためて認識する良い機会となりました。できるところから実践していきます。

あらためて女性の体調変化の大きさを感じました。男性にも、もっとセミナーの内容を聞いてもらいたいと思いました。体操や食事は実践してみようと思います。



ライブ中継による参加

スポーツエールカンパニーの認定を受けました!

朝や午後の体操・ストレッチをする運動機会の提供、階段の利用やウォーキングアプリを使用した「歩くこと」の奨励、部活動やレクリエーションの開催などの取組みが評価され、スポーツ庁より「2019年度スポーツエールカンパニー」に認定されました。



がん対策推進パートナーに登録しました!

厚生労働省主催の「がん対策推進パートナー」企業として登録しました。診断と治療の進歩で早期発見、早期治療が可能ながんが増えており、がん検診や人間ドックの普及とその制度の向上が理由とされています。当社では、従業員の健康維持に寄与することを目的に「がん検診受診率の向上」に向け継続的に取り組んでいきます。



活気ある職場環境づくりに向けて

多様な人材が長くいきいきと活躍できる会社づくりをテーマとし、女性活躍推進や障がいのある方の雇用推進、仕事と生活の両立支援、働き方改革などに取り組んでいます。

女性活躍推進

当社の女性活躍に係る方針は以下のとおりです。

- 一人ひとりの能力を最大限に発揮できるよう会社・上司がサポートすることで、従業員と会社双方の成長を目指す
- 女性が管理職や専門分野等多様なビジョンを持ってキャリア形成できる環境整備を実施する

今年度は「女性活躍を後押しするための体制整備・意識醸成」[施策浸透および上司のキャリア形成支援]に取組み、ワークショップの開催やイクボス宣言を実施しました。

女性の活躍を応援する企業として以下の認証を受けています。



2018年8月
「かながわ女性の活躍応援サポーター」登録



2018年9月
「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」加盟

両立支援

仕事と生活(育児・介護等)との両立を図りながら健康でいきいきと働くことが出来る職場環境づくりに取り組んでいます。その一環として、仕事と生活を両立するための勤務体系や休暇・休業制度、それらの制度の活用方法をまとめた「両立支援ハンドブック」を作成し、制度を利用する従業員だけでなく上司・同僚も制度の趣旨や内容を正しく理解しお互いに思いやりと責任をもって仕事に取り組めるようサポートを行っています。

子育てサポート企業として認定



当社は、従業員の仕事と子育ての両立を推し進め、より働きやすい就業環境の整備に取り組んでまいりました。次世代育成支援対策推進法に基づいて策定した行動計画への取組みを実施した結果、育児における柔軟な勤務制度の導入等により、子育て支援のための取組みが評価され、2010年5月、厚生労働大臣より次世代認定マーク(愛称:くるみん)を取得しました。

障がいのある方の雇用推進

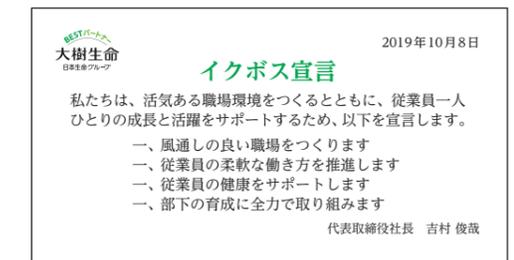
当社は障がいのある方の雇用を推進し、2020年3月現在の障がい者雇用率は2.36%と法定雇用率2.2%を上回っています。障がいのある方が安心して働くことの出来る職場環境整備にも取り組んでおり、無期雇用化や入社後の職場定着に向けた面談を実施しています。

働き方改革

業務効率化(業務削減と生産性向上)により創出した時間で、ワークライフバランスを実現するとともに自己への投資に充てることを通じ、いきいきと仕事に取り組むことの出来る職場環境整備に取り組んでおります。

- ・効率的な働き方を浸透させるため、パソコンの利用可能時間の制限や毎週水曜日を早帰りデーとする「Happy Wednesday!」などの取組みを実施しています。
- ・休暇取得を促進しワークライフバランスを重視したメリハリのある働き方を推進しています。
- ・働き方の柔軟性拡大を目的とし在宅勤務を導入しています。

「イクボス宣言」を実施しました!



ダイバーシティの推進やワークライフバランスの向上を目的とし、2019年10月8日に「イクボス宣言」を実施しました。

※「イクボス」とは職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランスを考え、部下のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果も出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことです。